

第1回ジオパーク下仁田協議会教育部会（報告）

日時：令和6年7月23日（火）午後1時30分～

場所：下仁田町自然史館

所 属	氏 名	出欠	所 属	氏 名	出欠
下仁田自然学校	保 科 裕	出	下仁田ジオパークの会	高橋真理子	出
群馬県立下仁田高等学校	島田 具広	出	公民館係長	市川 敬則	出
群馬県立下仁田高等学校	徳田 竜磨	出	社会教育主事	有賀 喜紀	出
下仁田小学校	芥川 正	出	下仁田町自然史館	神戸 進一	出
下仁田中学校	榊原 秀幸	出	下仁田町自然史館	関谷 友彦	出

部会長はオンライン参加

1 開 会

2 自己紹介

3 協 議

1) 令和6年度の地域学習の取り組みについての共有

（各学校）

小学校、中学校、高校については資料1のとおりそれぞれの総合学習の時間の中で地域学習に取り組んでいる。

特に中学校では、数年前から2年生の職場体験を原則の町内業者にお願いするようにし、職業の体験だけではなく、地域で抱える課題に地域の人がどのように立ち向かっているかを一緒に考えるきっかけにしている。

令和7年度小中学校の統合に伴い、総合のカリキュラムの見直しを進めている。その中でジオパークは現在小学校5年生が年間課題として取り組んでいるが、ジオパークでの調べ学習などは最終的に専門性に寄ってしまう傾向がある。いっぽうでジオパークは、そのほかの学年が取り組んでいる ネギの栽培や、コンニャク栽培、町の探検などとも深くかわる要素があり、「ジオパーク」を5年生の単位科目として学ぶよりはそれぞれの学習項目内でジオパークを学ぶような形がとれば良いと考えている。

(公民館)

子ども体験教室の中で、自然学校と連携した物見山での自然観察や浅葱斑の会の人たちと連携した事業を行っている。そのほかには木工教室やお料理教室などを行っているが、年々子供もへって来ており、教室への参加が少ない。

(ジオパークの会)

5月にウォーキング de ジオを行い、毎月20日のジオの日清掃の後のミニ講座を行い、地域住民向けの普及活動を行った。また、7月のジオの日は休日開催という事もあり、高校生の皆さんにも参加いただき、若年層に下仁田ジオパークやジオパーク活動を普及することができた。

全体を通じて出された意見

学校教育において、ジオパークの学習が幅広い分野に広がる一方で、それぞれの項目でジオパークという視点が伝えられていくかという問題がある。これについては、なんらかの学校にそれぞれの授業で活用してもらいやすい工夫を、アピールしていく必要がある。

また昨年からは理科、社会などの教科科目の各単元でジオサイトがどのように活用できるかをまとめているので、それも活用しながら学校現場にどのように活用してもらえるか引き続き検討していく必要がある。

2) 下仁田ジオパーク講座基礎編の開催について

部会員から、現在の下仁田ジオパークでは、魅力探しフォーラムなど新分野の地域素材について学べる環境があるが、これまでのジオストーリーなどでまとめてきた内容を新規ガイドや新しく興味を持ってくれた人が学べる環境がない。そこで、資料2のとおりジオパーク講座基礎編の開催が提案がなされた。

具体的には各回質疑応答込み1時間程度の座学を自然史館内で行い、そのあと提供された話題をもとに参加者同士で意見交換をし、理解を深める企画

⇒教育部会で企画立案し、協議会として実施するという事で9月広報から呼びかけて動き出すことになりました。

4 次回の部会開催について

12月 17 日 (火) 15:30 頃